

【会場 平尾小学校（12月20日開催）】 小林小学校・平尾小学校における学校再編整備計画案の作成に向けた説明会（ご質問と回答）

〔開催概要〕

- ・開催日時 令和6年12月20日（金） 19時00分～20時25分
- ・開催場所 平尾小学校 多目的室
- ・参加者 地域・保護者の方々 10名
- ・説明者及び関係者

【大正区役所】 古川 区長、北吉 副区長、前田 こども・教育担当課長、二階 教育施策担当課長代理 外4名

【教育委員会事務局】 笹田 学校適正配置担当課長、岡永 学校適正配置担当課長代理、佐野 指導部指導主事、東 学事課担当係長

【平尾小学校】 飯塚 校長

【ご質問と回答】

●小規模校のメリット・デメリットについて

項 番	ご 質 問	回 答
1	30年前から少人数学級の署名をしている。今の平尾小学校の児童数が人数的には一番いい状態ではないかと思う。小林小学校は20人ぐらいのクラスできめ細かく対応されているし、すごく家庭的である。そういう学校があってもいいと思う。統廃合はやめてほしい。	少人数学級を否定しているものではありません。本市においては小学校の適正規模を12学級から24学級としています。適正規模を下回る場合については、一定の集団規模を確保し、児童が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い協力し合い切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことが重要であることから、再編整備計画を策定して学校配置の適正化を進めています。
2	適正規模というのは子どものことを考えて決められているのか。人数が少ないほど先生の目が行き届くと思う。なぜ統合しなければならないのかと思う。	適正規模については、1学年で2クラス×6学年で、クラス替えができる学級数を確保するため、取組を進めています。少人数学級と学校規模というのは別の議論としてお考えいただきたいと思っています。クラス替えができて多様な子どもと知り合う機会を作ることなど教育活動を豊かにしていきたいという考えのもと取組を進めています。
3	クラス替えが本当に必要かと思う。人間関係云々というのであれば、過疎化が進んでいる小学校の子どもたちが人間形成ができていないかと言えばできているわけで。	クラス替えによって人間関係のつまづきが解消されることもあります。規模が大きくなっても小規模の時と変わらないきめ細かな対応を行い、教育内容も変わらないように取り組んでまいります。
4	予算で先生を増やして、小林小のような小さい小学校も残してあげて。	統合するにあたりましては、財政効果インセンティブ制度を活用して教育活動を充実するなど、しっかりと考えてまいります。

●教育内容について

項 番	ご 質 問	回 答
5	教育環境を良くするためというのであれば、今は教育環境が良くないという状況なのか。	このままの状況であれば小規模化が加速して教育環境が悪化するところであり、長期間維持可能な案をお示しさせていただいています。全学年単学級となると担任の数、つまり教員の配置数が減少し、教員同士の切磋琢磨ができなくなったり負担が増えたりするので、これらを改善していくためにも学級数を適正規模にする必要があります。

●再編方法について

項 番	ご 質 問	回 答
6	統合となれば1小1中となる。この統合の時期に中学校も含めて考えていかないと、大正区がどうなるのかということが一番心配。小中一貫校も一つの案であるし、令和10年をめざしてやっているのであれば、中学校のことも含めていい形で考えていただければ。	大正区内の中学校の生徒数も増えている状況ではないため、今後も注視してまいります。施設一体型の小中一貫校の検討も行いましたが、小林小学校、平尾小学校、大正中央中学校すべての児童・生徒を1校に収容できる校地がないため、選択肢から外さざるを得ないと考えています。

●教員の人材確保について

項 番	ご 質 問	回 答
7	学校を見学すると、先生の数が足りず、個別でサポートが必要な子どもが多いという印象を受けた。統合となれば大きな刺激となり、平尾小も小林小も子どもは心配だと思うので、指導力がある先生を適正な人数入れていただくようお願いする。	平尾小学校の児童の中で個別にサポートが必要な児童についても、統合によって削減された経費を再編後の新しい学校の教育のために活用できる財政効果創出インセンティブ制度を活用し、教員の加配等によってより良い教育環境を確保できるよう努めてまいりますのでご安心ください。

●財政効果インセンティブ制度を活用した予算について

項 番	ご 質 問	回 答
8	インセンティブ制度の予算はいつから使われるのか。平尾小学校の現状が充実していない状態で、不安を抱えている小林小学校の保護者の方も多いと思うので、加配の先生の配置はすぐにでもという気持ちがある。	インセンティブ予算については、最短で令和7年度から可能となります。教員の加配については、学校長などの意見を伺ったうえで最終的に教育委員会が決定していくこととなります。

●通学路について

項 番	ご 質 問	回 答
9	小林小学校区と平尾小学校区の境目である小林公園南西角には信号がない。今も小林小学校の方から平尾小学校へ通う子どもが何人かいるが、この信号のない交差点を渡ってきている。今後、小林地域から平尾小学校へ子どもが通学するのであれば見守り活動を強化する必要があると考えているが、資料18ページの通学路（案）を見ておかしいと思うのは、小林地域から南へ下って信号のある交差点の道へ回る子どもはいない。その辺の具体的な話を小林地域の方にも聞いていただいて、通学経路についてもう少し具体的に検討してほしい。	通学路（案）については、各学校長に意見を聞きながらたたき台として作成したものです。今後、警察や道路管理者等と協議しながら、学校適正配置検討会議において地域や保護者の方々のご意見をお聞きしながら検討してまいります。

●跡地活用について

項 番	ご 質 問	回 答
10	学校は一時避難所でもあり、大事な防災拠点である。小林小学校ではすぐきめ細やかに防災の取り組みをされている。防災拠点はどうか残してほしい。皆すごく不安に思っている。	防災拠点をどうするかについては、地域のご意見を踏まえて検討してまいります。小林小の跡地に防災拠点が残るということを探求したいと思いますので、地域の声を上げていただければと思います。

●まちづくりについて

項 番	ご 質 問	回 答
11	大正区ってこんなにいいところなんだということを頑張って宣伝してほしい。	平尾商店街でもここを沖縄ストリートにしようと取り組んだり、区役所もマルシェや空家のまち歩きなどで大正区の面白さをアピールしたりしてきました。これらを通じて大正区の良さを知り、移住してきた方も少なからずいます。ただ、一過性のイベントだけではなく交通施策や都市計画など大きな視点で区が変わっていかねばと感じています。大阪市としてどういうまちにしていきたいのか、しっかりと議論してまいります。

●その他

項 番	ご 質 問	回 答
12	小林小学校と平尾小学校の学校運営の違いについて一例をあげると、小林小学校は、早く登校した子どもが溜まらないように校門から全員入っているが、平尾小学校は、前が公園で車が入ってこないからだと思うが、20〜30人いつも小学校の前に溜まっている。小林小学校の保護者の中には、学校の中に入れないということを心配される方もいると思うので、統合になるという上においては、細かいことからよく相談をしてお互いが納得できるような形となるよう考えていただきたい。	登下校の対応など、細かいことも含めてよく話し合っていて決めていくことが大事であると考えており、円滑な統合に向けて取り組んでまいります。
13	小林小学校での説明会と平尾小学校の説明会に来ている人数に差があると思う。平尾の親がどのような考えを持っているか少し不安がある。両校の親がどういう考えを持っているか知る必要があるのでは。	児童については今後学校間で交流を行います。同様に、保護者の交流も有効であると思います。学校や保護者の意見を聞きながら、統合までにいろいろな検討を行ってまいります。